

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立鳥栖商業高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の進路実現への取組についてはよく頑張っている。 マナー教育やキャリア教育については、企業の人事担当者等の意見を参考とする方法も考えられる。 働き方改革については工夫が必要である。
2 学校教育目標	生徒一人ひとりの「生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分対応でき、平和な国家および社会の有為な形成者として、幅広い知識と豊かな心を有する、専門的知識と技能を身に付けた、心身ともに健全で実践力に富んだ人間を育成する。
3 本年度の重点目標	①高校生らしい「心遣い」の発言や行動ができる生徒を育成する。②何事にも積極的に挑戦する生徒を育成する。③授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高め、確かな学力を育成する。④地域の期待に応えられる魅力と活気に満ちた学校づくりを推進する。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○授業の工夫改善を図り、生徒の学習意欲を高めることによる、確かな学力の育成	○「話し合いや発表などとおして学習への意欲が高まった」と答えた生徒80%以上	・HR時にスピーチを行うとともに、読書の習慣化を図る。 ・各教科で主体的な学びを目指した授業研究会を実施する。	B	・朝読書の時間は定着できている。 ・スピーチの進捗状況は50%程度である。 ・各教科の授業研究会は100%達成できた。担当以外の教科にも参加し、学習用PCを活用した授業の工夫改善に取り組んでいる。	B	・コロナ下においても、オンライン授業や授業のライブ配信を行うなど工夫改善及び効果が見られた。
	○商業教育の可視化を目指した、資格取得の推進	○「資格取得をとおして達成感を感じた」と答えた生徒80%以上	・チームティーチングや習熟度別授業を行う。	A	・補習を実施するなどの検定対策を行うことで、生徒が理解できるよう取り組んだ。「資格取得をとおして達成感を感じた」と答えた生徒96%。	A	・アンケート結果においても評価が高く、効果が見られた。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「高校生らしい『心遣い』の発言や行動ができている」と答えた生徒80%以上	・人権講演会の実施 ・「情報処理」、LHRにおいて情報モラル教育、人権教育を実施する。	A	・高校生らしい「心遣い」のある発言や行動ができていると答えた生徒の割合95%。 ・LHRにおいて、進路保障等に関する人権教育を2回行った。また、長期休業前には情報モラルについて、全体的な指導を行った。	A	・登校指導においても挨拶がよくできており、指導の効果が見られた。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができている」と回答した教員90%以上	・いじめアンケートを年3回実施する。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間1回以上行う。	A	・いじめ防止について、いじめの未然防止や早期対応に努めていると答えた職員100%。 ・いじめ対応について職員研修を学期ごとに行った。	A	・アンケートや委員会等の開催も含め、組織的な対応ができている。
	◎ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上	・郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業や特別活動を行う。 ・地元企業重視のキャリア教育、就職活動の支援を行う。	B	・朝の読書での「佐賀語り」の活用は予定どおり全学年実施することができた。学年によってはそれをもとにスピーチ活動に繋げることができた。 ・佐賀に誇りや愛着を感じている生徒の割合は77%であった。	B	・就職状況においても県内を希望するものが多く、佐賀に愛着を持っていると思われる。 ・過去の偉人だけでなく、現在佐賀県や市町が取り組んでいる事業や佐賀で頑張っている人物等も取り上げるとよいと思われる。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上	・「保健・食育だより」の発行、HRでの声かけ等の実施。	A	・毎月保健便りを発行し、食に関する意識は高めることができた。 ・「健康に食事は大切である」と答えた生徒の割合96%。 ・コロナウイルス感染症対策のため「共食の重要性」を、推進できなかった。	A	・コロナの影響はあったと思うが、充実した指導ができていると感じられた。
	●安全に関する資質・能力の育成	●生徒の交通事故をゼロにする。	・事故発生事例を適宜生徒に周知するとともに交通安全講習会を実施する。	B	・事故件数は前期の3件で後期は発生していない。年度途中の交通マナー講習会や日頃からの意識を向上させることができたと思うが、並進については今後も根気強く指導を行い、事故の抑止と交通マナーの向上に努めたい。	B	・登校指導においても交通マナーが守られており、指導の効果が見られた。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	・時間外電話応答システムの導入 ・定時退勤日の設定および徹底	B	・昨年度と比較して、長時間勤務者数を減少させることができた。 ・各種調査やアンケート等について、ICT機器を利用するなど、業務の効率化を図った。	B	・時間外電話対応システムの導入など改善が見られるが、部活動については、社会体育と分けなければ、長時間労働の解決はしないと思われる。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○魅力と活力ある高校づくり	○地域の期待に応えられる魅力と活気に満ちた学校づくりの推進	○「活動をおして地域連携ができた」と答えた生徒80%以上	・クローバープロジェクトの推進を図り、地域活性化に貢献する。 ・商品開発や販売実習等とおして、地元企業とのつながりを深める。	B	・クローバープロジェクトについても校外での活動ができず、中止した行事があった。 ・コロナ感染症の影響により、校外での活動が制限される中、一部では商品開発や販売実習をすることができた。	B	・コロナの影響で充実した活動が困難であった。今後はコロナに対応した活動を考慮する必要がある。
○何事にも積極的に挑戦する生徒の育成	○部活動、ボランティア活動、国際交流活動等の推進	○「各種イベントや大会への参加、コンテスト等に応募したいと思うようになった」生徒80%以上	・世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業の活用 ・部活動加入の推奨 ・留学、ボランティア、コンテスト等の情報提供と推奨	B	・イベントへの参加はほとんどできなかったが、コンテストには例年より多く応募することができた。 ・世界とつながる佐賀県青少年交流推進事業ではオンライン交流を行い、計画の大切さや積極性を身につけることができた。	B	・コロナの影響で充実した活動が困難であった。今後はコロナに対応した活動を考慮する必要がある。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	生徒及び保護者に対して実施した学校評価アンケートについては概ね満足できる評価結果であった。また、相対的に評価が高くなかった「生徒の学習意欲を高めること」、「ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動」、「魅力と活力ある高校づくり」については、コロナウイルス感染症による教育活動等の制限がかなり関係したものと考えられる。次年度は徹底した感染症対策を施した上で、「ウイズコロナ」のもとに新たな取組内容や教育活動の工夫を図っていききたい。
----------------	---